

武蔵野倶楽部 漫遊フォト日記

玉川上水を歩く 第2回

拝島から鷹の台まで

2020年（令和2年）11月10日（火）

玉川庄右衛門、清右衛門兄弟によって江戸時代前期の承応3年（1654年）に造られた玉川上水を4回に分けて歩くシリーズ企画。11月10日に実施した第2回は拝島から鷹の台までの約11キロを歩きました。その様子をまとめましたのでご覧ください。

なお、第3回、第4回はそれぞれ来年の桜の季節、新緑の季節に実施予定です。



この日、玉川上水は水量が多く、澄んでいました。



昼食場所の木曾路東大和店の前にて。本日の参加者は総勢 26 名。でもよく数えてみると、27 名います。お店の和服姿の女性に加わってくれたのですが、どこにいるか分かりますか？
なお、強い日差しのために前列・後列で光の加減に失敗しました。すみません。



玉川上水には何本の橋がかかっているのか分かりませんが、この日も何度も橋を渡りました。



かつて飛行場の滑走路延長が計画された時に、玉川上水は約 300 メートルふたをされました。近くには昭和の森ゴルフコースと巨大なゴルフ練習場があります。



道端の草むらにあった身長 50 センチほどの子供の像。



横田基地から飛来するののか、軍用機が低空を飛んでいました。



玉川上水と残堀川の交差点。橋の下を流れる川は残堀川。玉川上水は残堀川の下をくぐって、写真の左手前から右上の方向に流れています。

サイホンの原理を応用した『ふせこし』という工法が使われています。



『ふせこし』の工法を理解しようと、玉川上水を覗き込んでいました。たくさんの鳩がいましたね。



ちょっと分かりづらい写真ですが、小平監視所です。玉川上水の水は、ここで落ち葉などを取り除き、沈砂池で砂を沈め、きれいな水にして東村山浄水場に送られています。



ここから清らかな水の流れが始まります。



小さな滝となって流れ出していました。



趣のある景観を背景に記念写真。まだ4キロほどの距離を残していますが、皆さん元気ですね。



途中、『こもれびの足湯』に立ち寄りしました。
時節柄、足湯はビニールシートで区切られていました。



足湯の湯は、隣接するごみ焼却施設の余熱を利用しているとか。



ピクニックエリアでもしもの最中。絵になりますなあ。



こもれびの足湯に実っていたウリ状の実。名前は忘れまして。



見下ろす先には極めて大きな鯉が集まっていました。足湯から流れ出る温水の影響かな？



明治初期に掘られた新堀用水の一部区間では、『胎内堀（ほっこぬき）』と呼ばれるトンネル状の採掘が行われました。まず縦穴を掘り、地下で横に掘り進める、現代で云うシールド工法。写真の柵の中には、かつての縦穴が保存されています。



階段を下りていくと、胎内堀（ほっこぬき）の出口がありました。



胎内堀の出口。清らかな水が流れ出ていました。



テレビ東京の『出沒！アドマチック天国』で紹介された喫茶室入り口。今回は時間の関係でお茶を楽しむことは叶いませんでした。



『きつねっぱら公園』入り口のモニュメント。確かにこの辺り、昔は野狐が闊歩していたのでしょね。



本日の終点、西武国分寺線鷹の台駅近くの『線路と玉川上水』



どうも、お疲れ様です！



風景に溶け込んでいますね。



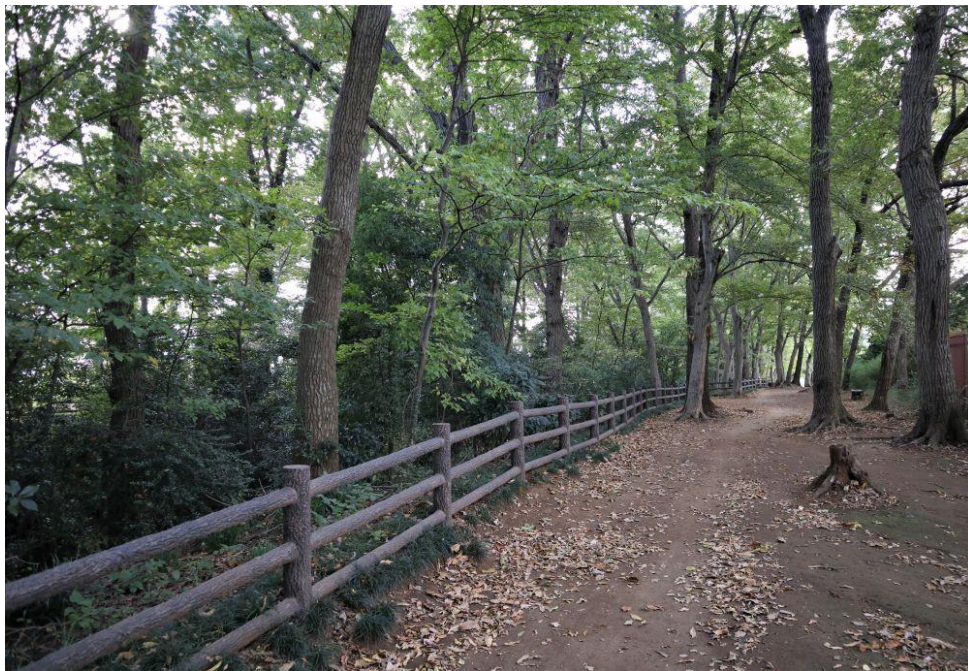
ドングリはブナ科の樹の実



虫食いの葉にも風情がありますね。



何という花？



自然を残しつつ、よく整備された遊歩道



皆さん、来年また第3回、第4回で会いましょう！

(了)